



ボン＝ライン＝ズィーク大学

(ドイツ連邦共和国)

(Fachhochschule Bonn-Rhein-Sieg)

交流協定締結年月日：2000年12月15日 主管学部：工学部



工学部協定校訪問の様子



キャンパス(ザンクト・アウグスティン)



ライン川沿いの遊歩道

国際交流の特色(大学紹介)

ボン＝ライン＝ズィーク大学(Hochschule Bonn-Rhein-Sieg)はノルトライン＝ヴェストファーレン(NRW)州ボン郊外ザンクト・アウグスティン(Sankt Augustin)とラインバッハ(Rheinbach)のライン川を挟んだ2つのキャンパスに分かれ、経営学と工業技術を中心として、実践的な知識と技術の研究を目指す大学です。ボンは旧西ドイツの首都であり、現在の首都であるベルリンに移されると、この地方への代償措置として1995年に新設されました。大学の基本方針として「国際的(international)、実践志向(praxisorientiert)、学際的(interdisziplinär)、そして女性に対して公正(frauengerecht)である」ことを掲げおり、数多くの外国人留学生を受け入れています。工学部では、国際インターンシップによる学生の相互派遣を行っています。

交流実績(平成25年度～27年度)

国際インターンシップ学生の受入・派遣

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
受入	1	0	0
派遣	1	1	1

工学研究科学生からの声

2016年10月から3か月間、国際インターンシップ制度を利用し、留学しました。ボン＝ライン＝ズィーク大学は国際色豊かな大学でアジア、アフリカ、ヨーロッパと様々な地域から、幅広い年齢層の方がいます。私の受入れ先の研究室はドイツ人のみでしたが、社会人の研究生もいて、異なる分野の研究で困っていたところを、随分と助けていただきました。

私は週末等の休みを利用してドイツ中の観光もしましたが、街ごとの特色や旧市街地等見て回り、日本との違いを楽しむ事ができました。周囲のベルギー、オランダ、フランス、オーストリアなどの街も見て回るとドイツとの違いが楽しめます。

こちらでの生活は日本のように待っていたら何かしてくれるということがないため、自分から全てやらなければなりません、その努力が自分への自信へと繋がると思います。留学は、最初は日本と文化の違いや治安に不安があり一歩がなかなか踏み出せないかもしれませんが、日本では体験できない生活が待っています。この経験は将来、絶対自分のためになると思うので、興味があったら是非チャレンジしてみてください。

工学研究科 太田 貴士

工学研究科学生からの声

私は平成25年9月末から約3ヶ月間、ボン＝ライン＝ズィーク大学で国際インターンシップ生として研修をさせていただきました。私の配属された研究室には、異なる研究のバックグラウンドを持つ多くの学生・研究者の方が所属しています。研究活動を通して、工学的な専門知識を得たり、語学力の向上を図るだけでなく、異国の文化に直に触れることで、自分を見つめ直し、新しい価値観を得ることができたと思います。

初めての海外生活は、毎日が新しい経験の連続でした。したがって、日常は大変目まぐるしく退屈している暇がありません。もちろん楽しいことばかりではありませんが、日々の何気ない出来事一つ一つが、私にとってかけがえのない経験となり自分を強くし、成長させてくれたと感じています。きっかけは人それぞれだと思いますが、「行ってみたい！やってみたい！」という素直な気持ちで1番大切だと思います。後輩のみなさんにもぜひこの制度を利用して、素晴らしい経験をしてきてほしいと思います。

工学研究科 清家 都宏

ボン＝ライン＝ズィーク大学

(Fachhochschule Bonn-Rhein-Sieg)

ホームページ <https://www.h-brs.de/de>

●学部学生 7352人(2014/15冬学期)